


伊江小発祥の地 もう

 **はーみ毛**

チャレンジ、学び、笑顔いっぱいの学校をめざして

学校・地域・保護者みんなの子ども像

- 伊江っ子よ 強く 正しく 朗らかに! (伊江小校歌より)

キャリア教育目標

- チャレンジしてやり抜く子
- 学び合い、自分で考え表現する子
- 笑顔いっぱい、チームワークを発揮する子

3月4日6年生を送る会がありました。これまでリーダーとしてがんばった6年生。卒業するのは寂しいですが全校児童で卒業を祝って温かく、和気あいあい、笑顔あふれる会となりました。新児童会の企画運営ありがとうございました♡

6年生をおくる会



★宮城県山元町立坂元小への励ましのメッセージを送りました。

2月の地震で大きな被害を受けた坂元小の皆さんにメッセージを送りました。坂元地区は福島県の震源地に近いせいか、町内でも特に被害が大きかったようです。10年前を経験している方は口々に、今回の方がひどいとおっしゃっていたと坂元小の校長先生から伺いました。通常の授業は16日から再開したそうですが体育館は立ち入り禁止状態で卒業式は別会場で行うことが決まったそうです。気が休まることのないと思いますが子どもたちが元気に登校していることが何よりです。



2月14日に地震が起きたことをニュースで知って心配しています。復旧作業に追われているかもしれないけれど山元町が元通りになったらまた交流会をしましょう。坂元小の神楽をもう一度見てみたいです。…遠くからだけ応援しています。5年 与那城しいな

140周年記念思い出ノート

ちとせ印刷様から140周年記念思い出ノートの寄贈がありました。



表紙には全員の集合写真、裏表紙は140の人数文字、中には校歌と校章の写真があります。伊江小の140th ANNIVERSARY思い出ノートです!ありがとうございました!

★伊江小小麦粉で🍞

休校中に収穫した小麦を製粉し小麦粉を使ってアイデアいっぱいの料理をしました。パン、スコーン、クッキーどれも最高の味でした。



★SDGs 持続可能な開発目標の取組★

思い出のランドセルをアフガニスタンに贈ろう 6年



徳山伊江郵便局長を講師にお招きし「思い出のランドセルをアフガニスタンに贈ろう」の授業を行いました。

最近よく耳にする SDGs。貧困問題、環境問題、質の高い教育、ジェンダーなど世界を変えるための17の目標があります。その中でも特にアフガニスタンの子供たちの貧困に苦しみ様子をお話していただきました。低年齢で出産し、満足に教育を受けられない子供が多いこと、特に女の子の就学に役立てるために、役割を終えたランドセルを寄贈するということ…。伊江小から贈られたランドセルをきっかけに、学校に行くことができるお友だちがひとりでも増えてくれたら嬉しいです

★幼稚園親子 DIY 卒園制作

…2/22に親子で卒園記念テーブルを作成しました。子ども達と絵を描いて仕上げます。たくさんの参加ありがとう🍷





第70回社会を明るくする運動 作文コンテスト
那覇保護観察所長賞 優良賞を受賞した6年友寄愛
琉さんの作文を紹介します。

一つ一つの小さな事

ぼくは、様々な色んな事件のニュースを見て、母に聞いてみた。

「事件をおこしてしまった人は、いったいどこへ連れていかれるの。」

母は、
「刑務所や更生施設に行くよ。」
と言っていた。

ぼくは、更生施設に行った人はどのようになるのかなあと不思議に思いインターネットで調べてみた。すると、更生施設に入った人はほとんどふつうのいっばん人と同じ生活にもどるといふ。でもまた犯罪をおかしてしまう人もいと書いてあった。

そこでぼくは、どうしたら犯罪のない平和な世の中になるのかと考えた。

たとえば未成年の夜遊びを禁止する。夜の十時以降の夜遊びを禁止すれば若い人達の犯罪が減るだろうが、どうして強く禁止できないのかぼくはさらに不思議に思う。

そのほかにも現在、更生施設にいる人達にボランティアで障害のある人のお手伝いをする体験や社会生活にすぐに慣れて働けるようになるために更生施設で会社や経済の勉強ができる機会をあげるなどするとすてきだと思う。

もしも犯罪をおこしてしまうと、今までの人生が一瞬にして大きく変わってしまう。ぼくは、テレビのニュースで芸能人や歌手、スポーツ選手が麻薬やくせいの薬物で捕まったのを見た事がある。捕まる前までは、人気のある人で（カッコいいな!）と思っていた人でも、捕まると今まで予定していた仕事はすべてなくなりファンもがっかりさせてしまう。

きっと本人は、わかっているはずなのに、なぜやってしまうのだろう。ぼくはその立場になった事はもちろんない。ぼくだったら一瞬で変わってしまうと分かっていたら絶対にやらないだろう。

もし、それでも周りにやっつけてしまいそうな人や、やっつけてしまった人がいたらその人の話を聞いてあげた

いとぼくは思う。相談にのって聞いてあげて、薬物を使わないように最後まで説とくしてあげたい。

ぼくは、テレビのニュースなどで知った事件がなぜ起きるのかを調べて悪いことをした人、すべてが悪いわけではなく、病気の人がいったり、苦しんだりした人もいと分かった。

それでも、犯罪は絶対にダメだ。世界中の人が平和に生活するためには、悪いことをしてしまった人にも反省してやり直すチャンスが必要だと思う。

ぼく達にも、まちがった事をしたり、ケンカをする事もある。そんな時は、まちがった事をしたと教えてもらったり、自分で気付いたり反省して次は同じ事をしないでおこうと何度でもやり直せるチャンスがある。また、ケンカをしてしまう時は、相手のことを考えないで自分勝手になり、口調が悪くなることもある。

でも、ぼく達は、ケンカを止めてくれる人もいます。今、社会を明るくするためにたくさんの人々をすぐに変えていくのはできないけれど、ぼくが変わることはできる。まずは、ケンカしてしまいそうな時は、すぐに感情をぶつせず、相手のことを考えてみよう。ほかにも、周りの人のことを考えて行動したりすることで小さなことだけど何か変わるかもしれない。そして、そんな事が少しずつ広がると、ぼくたちの生活する世界は、きっと明るい社会になりそうな気がする。



<https://iesho.iejima.ed.jp/>

伊江小ホームページご覧ください

